

評価者	共創計画部長	比留間 彰
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

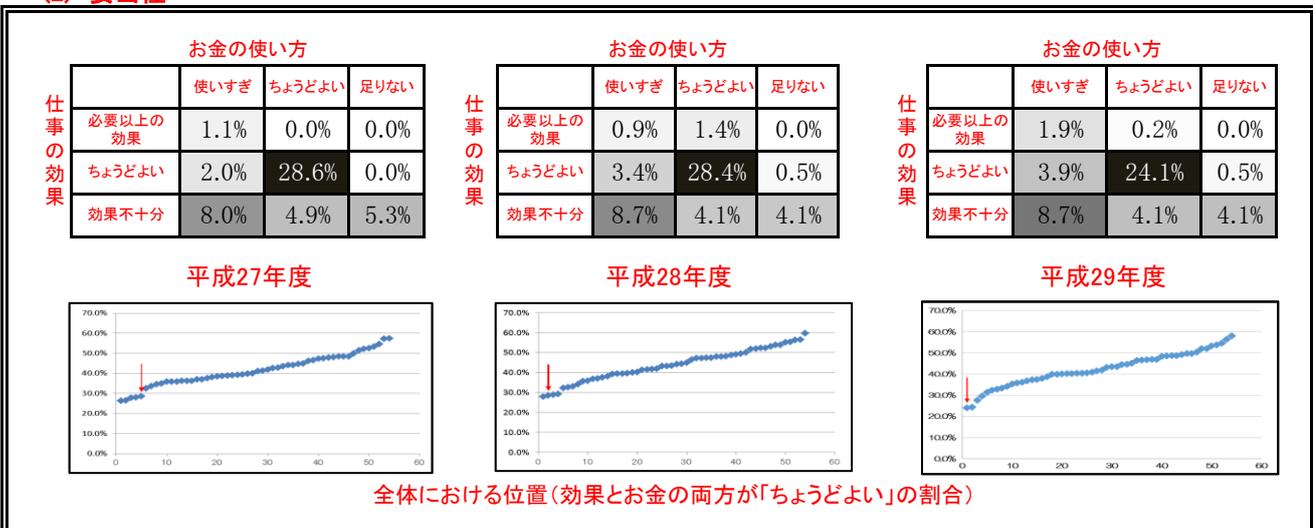
総合計画上の位置付け	分野	人権	施策の方針	人権施策の充実
目標とすべきまちの姿		人権問題が複雑・深刻化するなかで、「かまくら人権施策推進指針」に基づく施策の充実や、学校・家庭・地域間の緊密な連携により人権教育を推進することで、だれもが市民として尊重され、あらゆる分野への参画ができる社会になっています。 特に、行政、市民、地域社会、事業者など社会全体で男女共同参画社会の形成に取り組むことで男女共同参画の意識が根付き、子育て・介護などの家庭責任の男女間での分担、労働環境の向上、地域社会での助け合い、支え合いが実現しています。		

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	42.9%	平成28年度	43.7%	平成29年度	45.7%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	12.7%	27.6%	7.7%	52.0%
平成28年度	11.7%	32.3%	6.7%	49.2%
平成27年度	11.7%	31.3%	7.3%	49.6%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

- ①人権尊重の意識高揚を図るため、講演会の開催や人権メッセージ展・街頭啓発活動、相談業務等の人権啓発事業を鎌倉市人権擁護委員会等の人権関係団体と連携して実施する。(共創-17)
- ②「かまくら21男女共同参画プラン(第2次)改訂版」に掲載した事業を推進していく。(共創-16)
- ③アンサンブル21と協働し、より多くの参加者を呼び込めるセミナーやフォーラムを開催して、男女共同参画社会の実現のための周知啓発を行うとともに、情報紙「パスポート」のあり方を見直す。(共創-16)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

- ①人権施策の充実や、学校・家庭・地域間の緊密な連携により人権教育を推進することで、だれもが市民として尊重され、あらゆる分野への参画ができる社会とする。
- ②社会全体で男女共同参画社会の形成に取り組むことで、男女共同参画の意識が根付き、社会全体の中で男女間の分担が実現されていく。
- ③女性の社会参画や活躍を周知啓発することで、性別にかかわらず、だれもが市民として尊重され、あらゆる分野への参画ができる社会とする。

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
共創-16	男女共同参画推進事業	3,708	3,233	10,788	11,890	1.0	1.0		b	B
共創-17	人権啓発事業	2,673	2,634	10,945	12,005	1.1	1.1		b	B

(4) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】 ①人権尊重の意識高揚を図るため、講演会の開催や人権メッセージ展・街頭啓発活動、相談業務等の人権啓発事業を鎌倉市人権擁護委員会等の人権関係団体と連携して実施した。 ②「かまくら21男女共同参画プラン(第2次)改訂版」に掲載した事業を推進した。 ③アンサンブル21と協働し、より多くの参加者を呼び込めるセミナーやフォーラムを開催して、男女共同参画社会の実現のための周知啓発を行うとともに、情報紙「パスポート」を紙媒体からfacebookにした。</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p>

(5) 平成29年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
<p><上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等> ・人権擁護委員と協働し、相談業務や周知啓発活動、未就学児(保育園)の人権教育実施に取組み、効率性及び妥当性を適切とした。(共創-17) ・LGBTに関する講演会を実施し、妥当性を適切とした。(共創-17) ・アンサンブル21との協働により講演会等(フォーラム)を開催し、効率性及び妥当性を適切とした。(共創-16) ・人権施策充実事業の市民認知度が高まったとは言えず、有効性及び公平性を要改善とした。</p>			

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<ul style="list-style-type: none"> 市民・事業者に対して、男女共同参画社会の理念をさらに周知すること。 男女共同参画市民ネットワーク「アンサンブル21」の運営委員の活動を活性化する。 引き続き人権尊重の意識を啓発していく。

(7) 平成30年度の目標

<ul style="list-style-type: none"> ①人権尊重の意識を啓発するためイベント「人権フェスタ2018inかまくら」を開催する。 ②男女共同参画市民ネットワーク「アンサンブル21」の運営委員の活動を活性化し、市民・事業者に対して、男女共同参画社会の理念をさらに周知する。

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

<ul style="list-style-type: none"> ①人権施策の充実や、学校・家庭・地域間の緊密な連携により人権教育を推進することで、だれもが市民として尊重され、あらゆる分野への参画ができる社会とする。 ②社会全体で男女共同参画社会の形成に取り組むことで、男女共同参画の意識が根付き、社会全体の中で男女間の分担が実現されていく。 ③女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の施行に伴い、市内事業所における女性の活躍を推進するため、啓発事業及び事業所の要望に応じてアドバイザーを派遣し、女性の職業生活における活躍を推進し、ひいては社会のあらゆる分野へだれもが参画できる社会としていく。

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	共創-16	事業名	男女共同参画推進事業							
指標の内容	審議会等の女性委員の割合					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
政策・方針決定過程への女性の参画の指標として全国的に取り入れられているため。	目標値	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0			
	実績値	27.3	26.8	24.7						
	達成率	91.0%	89.3%	82.3%						
整理番号	共創-17	事業名	人権啓発事業							
指標の内容	人権擁護委員による保育園での人権教育(紙芝居)					単位	回	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
未就学の段階で人権意識の高揚を図ることが重要であるため。	目標値	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0			
	実績値	4.0	12.0	10.0	6.0					
	達成率	40.0%	120.0%	100.0%	60.0%					

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘	指摘への対応、コメント等
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権」を考える上で「男女共同参画」といった男女が均等に政治的、経済的、社会的、文化的利益を享受することの実現に向けた内容が中心に置かれている。「LGBT」や「障害者」「ネット等による人権侵害」まで隔たりのない取組が課題である。 ・鎌倉市においてどのような人権問題が発生し相談があるのかを定量的に把握することが必要である。市民の相談実態は把握しているのか。 ・目に見えない差別、意図しない差別、若い世代は感じているようである。核家族の弊害が今、表れてきている。 ・かまくら男女共同参画市民ネットワーク「アンサンブル21」と協働で男女共同参画の周知とあるが効果がよく分からない。協働のあり方を見直し、より効率のよい事業にしていける必要がある。 ・情報紙「パスポート」のあり方を検討する必要がある。市内事業所向けの男女共同参画周知啓発ダイレクトメールを発送し、そこに「パスポート」を同封する、あるいはPDFによりHPからも簡単に閲覧できるようにすることなどが必要ではないか。 ・人権施策推進指針を平成25年度に改訂し現状に合わせた内容の追加等を行っていることは良いが、その内容は十分に伝わっていない。 ・ほとんどの取組みが「男女共同参画」に関するものであり、「目標とすべきまちの姿」に掲げられる「だれもが」に対する取組みが見られない。 ・イベントに参加する市民はもともと人権に対する意識を持った市民である。セクハラ・パワハラ等を行う加害者は無意識に行っており、このような市民にこそイベントに参加してもらう必要がある。 	<p>人権施策の充実には、男女共同参画だけでなく、LGBT(性的少数者)や外国籍市民等のマイノリティに対する市民理解も不可欠であり、それらを含めた講演会(啓発事業)を引き続き行っていく。</p> <p>「人権相談」は法務大臣が委嘱した「人権擁護委員」が行っていることから、相談内容は鎌倉市では詳細に把握することができない。</p> <p>閉じられた人間関係のなかでお互いが無関心であることは、人権問題の解決につながらないと考えている。身近な社会に人権侵害又はその芽があり得ることを、講演会等の継続的かつ地道な活動を行っている。</p> <p>かまくら男女共同参画市民ネットワーク「アンサンブル21」と協働で男女共同参画情報紙「パスポート」を発行し、女性が社会でいきいきと活躍することを紹介することで、意識啓発に取り組んでいる。平成29年度からは紙媒体から電子版に移行し、より幅広く、特に若年層への啓発に努めている。</p> <p>人権施策推進方針そのものの周知より、「人権」についてのきっかけづくりを、人権の日(6/1)等の機会を捉え、街頭声掛けやパネル展示を行っている。人権問題は広く共有される必要があり、まずは「人権」を広く意識啓発することが重要であると考えている。</p> <p>だれもが市民として尊重されることを念頭に、自らの意思によって社会に参画する社会を実現するため、取組みテーマとして最も長い女性(性別)に関するものを核としている。平成29年度にはLGBTに関する講演会も開催している。</p> <p>人権に関心のある人や被害者のみに関心をもつような内容でなく、無意識に加害者になり得る人にも人権について考えるきっかけを与えるよう、毎年切り口を変えて啓発事業を実施している。</p>

提言

・「人権」と一言と言ってもその解釈は様々であり、その中で人権が尊重されるということがどういうことなのかは、特に答えが見つけにくいのが現状である。例えば「命を大事にする」、これも人権を尊重することの一つである。毎年、誰でもわかる簡単なサブテーマを設けるなどして、小さな取組でも確実に事業展開できることから始めてほしい。

・現状を掌握した上で市が取り組むべき「人権テーマ」を明確にし具体策を示されたい。

・実施結果についても「盛況」という表現では理解不能である。

・根強い考え方は一気に変わることはない。人権尊重をこの分野だけが考えるのではなく、市役所全体の部署で範を示してほしい。

・平和・人権に関し具体的施策が、啓発にとどまっている状況が継続している。平和に対する鎌倉らしい背景を掘り起こす等、特色ある具体的な施策の展開が望まれる。

・市民が人権問題へ関心を持つような研修、講演会、イベント、企業への研修などの企画が必要である。

・人権問題は極めて現代的なテーマが多い。人権教育は未就学児ではなく、小中高生を対象にすべきではないか。

・市が現在一番重要だと思っている人権問題は何か、そこが分からないので、一番力を入れるべきところも見えてこない。

・市役所内の人権施策が多い。もっと企業や個人に対する取組を行うべきである。

・評価委員会からの『「人権」という言葉の定義に個人差があることから、人権侵害の最大の問題点は、侵害のラインが明確に伝わらないことにある。』という指摘に対して「市は、市民の人権意識の高揚を図るために啓発事業を行うのみであり、人権侵害かどうか判定し、その侵害を是正する具体的な手段を有しておらず、限界を感じる」とコメントしているが、何が人権侵害にあたるか等に教育しなければ侵害と考えていないでパワハラやセクハラを行っている人たちを変える事は出来ない。そもそも「市民の人権意識の高揚」とは何か、この様な不明確な目標では「目標とすべきまちの姿」を実現する事は出来ない。「目標とすべきまちの姿」にのっとり、より具体的な目標を掲げ、それに伴う取組を行うべきである。

質問

・主な事業における指標に「審議会等の女性委員の割合」がある。未達成のようであるが、女性委員を参画させることは、そんなに難しいのか。また、なぜ女性委員を増やさなくてはいけないのか。そうすることが本事業の目標達成につながるのか。

提言に対するコメント等(総論)

「人権」という広く深いテーマであり、多くの切り口(テーマ)があり得るが、いずれかに重点を置くことなく、一人ひとりを尊重すること等の基本とすることで、偏ることなく取り組んでいる。また、広く人権問題に関心を持つようにするためにも、さまざまな切り口が必要であると考えている。

さまざまな人権問題は、一人ひとりが多様性を尊重することが解決のための一歩であり、切り口(例:性的少数者の人権)に応じた取組みについて、合理的優先順位をつけることは困難である。

セクハラ等の言葉の理解があったとしても、無自覚のなかでセクハラ等人権侵害が行われてしまう。よって、一人ひとりを尊重し合うこと、多様性を認め合うことなどの基本に立ち返った啓発事業を、継続的かつ地道に取り組むことが、もっとも重要であると考えている。



質問に対する回答

政策・方針決定過程への女性参画を進めるため、審議会等における女性割合を指標としている。審議会には学識経験を有する者・各種団体の代表などにより構成されることが多く、結果的に男性の割合が多くなってしまっている。この指標は、単に女性割合引上げのみを目的にしているものではなく、現状を示すものではあるが、政策決定の過程に女性が関わることができる体制が整っているかを見る有効な指標の一つであるとは考えている。



鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・LGBTや障害者をテーマとするなど、社会状況に合わせた人権啓発講演会を開催するとともに、人権擁護委員とともに相談業務や未就学児に対する人権教育などに取り組んだことは良い。
- ・講習会の開催や参加・人権メッセージ展・街頭啓発活動等講座等の開催により、市民に男女共同参画社会実現のための啓発を行った。
- ・LGBTに関する講演会の実施は評価したい。しかし実施したから妥当だと考えるものであってはならないので、効果が確認できるような形で継続されることを期待する。

		評価の内訳								委員会の評価
取組	↗	0	↘	0	→	7	⇒	→		
効果	○	0	△	1	-	6		-		

《課題》

- ・平和・人権に関し具体的施策が、啓発にとどまっている状況が継続している。平和に対する鎌倉らしい背景を掘り起こすこと等、特色ある具体的な施策の展開が望まれる。
- ・限られた人員、予算の中で出来る限りの取組を進めてきたが、まだまだ全市的に理解が進んでいるという状況には達していない。
- ・かまくら男女共同参画市民ネットワーク「アンサンブル21」と協働で男女共同参画の周知とあるが効果がよく分からない。協働のあり方を見直し、より効率のよい事業にしていく必要がある。
- ・まちの姿に「特に男女共同参画に取り組む」とあるが、「審議会女性委員の割合」が唯一の指標か？的確な指標の設定を望む。

《提言》

- ・男女共同参画社会とはなにか。女性の社会進出、家事の社会化をすることではない。性別役割分業を改善し、それぞれ性の特徴を生かした施策を望む。
- ・多様化の社会の中で、まずは子供たちへの教育に力を入れてほしい。人権施策が男女共同参画といった大人対象の取組に比重が置かれるのではなく、女性、子供、障害者、高齢者など様々な人権施策が必要になってくる。特にインターネットによる人権侵害、性的指向、性同一性障害の施策は急務である。そのため、学校教育でこういった分野の理解を深める機会を十分に設けていくべきではないだろうか。
- ・「目標とすべきまちの姿」として、「だれもが市民として尊重され、あらゆる分野への参画ができる社会になっています。」と掲げられているが、どの様な方法でこれらの状況を把握するのか困難である。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある、「特に、行政、市民、地域社会、事業者など社会全体で男女共同参画社会の形成に取り組むことで男女共同参画の意識が根付き、」について、「行政」については理解できるが、「市民」「地域社会」「事業者」など「行政」の範囲外の目標が掲げられている。

《質問》

- ・「情報紙パスポート」を電子化したのが、その狙いは何か？
- ・「人権フェスタ2018inかまくら」にはどのような市民(世代やジェンダーなど)が参加することを想定しているのか。
- ・「鎌倉市民評価委員会からの指摘」に関する意見について、「人権擁護委員」は法務大臣が委嘱しているので、相談内容は鎌倉市では把握できない」としているが、「人権擁護委員の活動」は鎌倉市の事業では無いということか？
- ・「目標とすべきまちの姿」にある、「人権問題が複雑・深刻化するなかで、「かまくら人権施策推進指針」に基づく施策の充実や、」について、施策はどのようなもので、何をもって充実していると判断するのか？
- ・「目標とすべきまちの姿」にある、「学校・家庭・地域間の緊密な連携により人権教育を推進することで、」について、どのような連携が行われているのか？